



船引小学校だより



【教育目標】
思いやりのある子ども
よく考えてしっかり学ぶ子ども
進んでからだをきたえる子ども

令和2年12月8日
田村市立船引小学校
発行責任者
校長 有賀 仁一

今後の鼓笛活動について！

鼓笛隊活動に係るアンケート（保護者）結果

	P T A 実数	存続す べき	できれ ば存続	どちらと も言えな い	廃止すべ き・廃止 やむなし	一任	その他	提出数 (件)	回収率 (%)
1年	41	1	3	5	6	2	1	18	43.90
2年	71	8	2	2	15	3	2	32	45.07
3年	65	4	10	4	10	1	2	31	47.69
4年	82	13	5	7	18	9	5	57	69.51
5年	120	21	3	9	18	3	6	60	50.00
6年	116	18	7	9	12	0	1	47	40.52
合計	495	65	30	36	79	18	17	245	49.49

**アンケートへのご協力
ありがとうございました！**

～ 保護者も・児童も・教員も・

賛否両論！～

新学習指導要領の改訂による外国語科の導入をはじめ、道徳の教科化、ICTや放射線・防災・食育…といった各種教育内容が次々と導入され、授業

鼓笛活動のこれからについてのアンケート（児童）結果

	①これからも続 けてほしい	②どちらかとい うと続けてほし い	③どちらかとい うと続けなくて よい	④続けなくても よい
3年	44	19	23	20
4年	32	26	43	11
5年	48	42	27	13
6年	47	29	24	14
小計	171	116	117	58
合計	287		175	

時数の確保が大きな課題となっています。そのために、これまでも学校行事や日課表等の見直しを図り対応してきたところです。しかし、学校生活での変化や潤い・豊かさを考えると、限界にきています。

また、教員の働き方改革として、「子どもと向き合う時間」を確保することが強く求められています。授業外の活動や業務に時間をとられ、本務である授業を充実したものにできていない教員が多いという全国的な背景があります。しかし、本校の先生方は、

そうならないようにと時間外遅くまで、その日の子どもの学習に目を通したり、翌日の授業の準備をしたり、生徒指導の問題に複数で対応したりして、長時間労働に至っているのが現状です。

こうした中、一昨日、本校教員の時間外勤務時間が長すぎるということで県教委から指導を受けました。さらに、教職員組合からも申し入れがありました。昨年度の県校長会『「教員の働き方改革」宣言2020』を受けて改革を進めてきたところです。が、事実は事実として、忸怩たる思いで受け止めました。児童数が多く1つの課題処理に時間がかかること、昨年度の反省をふまえて生徒指導問題には複数で対応すること等が長時間勤務に大きく影響しています。しかし、ここは絶対削れないところです。では、他に何か改善できること・改善すべきことはないか？と問うた時、改めて挙げられたのが「鼓笛活動」です。

3年前の本校着任時、いの一番に改善を懇願されたことの1つが「鼓笛活動」でした。しかし、鼓笛活動は愛校心を育むことをはじめ、憧れや希望をもたせる意味のある活動であり、継続をお願いしてきました。今もその思いがあります。しかし、本校独特の課題も実感してきました。それは「オーディション」です。一定のルールを決めて、担当者を選考していくのですが、毎年のように、その結果や選考の可否に、保護者から申し入れがあるのです。先生方は公平・公正のもとに選考していることを伝えますが、納得いただくのに大変苦慮してきました。ボイスレコーダーで録音され、あとで追及されたこともあったようです。そうならないようにと、選考方法を

改善し、今や鼓笛の選考は、担当・担任・学年のみならず、音楽主任・管理職・ビデオカメラ撮影記録まで行っています。また、担当が鼓笛活動を進めるためには年間40時間以上を要します。このうち授業時数で計上されるのは、6年生9時間、5年生16時間で、他は時間外です。

時間を要して仕上げる割に発表の機会が少ないといった理由から、他の教育活動の充実を考え、鼓笛活動を見直している学校が多いのが現状です。郡山市は、かつてほぼすべての学校に鼓笛隊がありましたが、今や半数程度、今も毎年見直しを図る学校が出ています。田村地区内も同じような動きがでています。(しかし、田村地区内はまだまだ鼓笛活動を続けている学校が多いです。その理由は、「学校が小規模化する中で、学校に特設の陸上も合唱も合奏も何もない実態の中、鼓笛活動をなくしたら何もなくなってしまおう」というものでした。「船引小は、様々な活動の場があっていいですね。」という羨望の言葉も返されました。)

一方、県内で本校よりも児童数の多い5つの小学校の状況ですが、全ての学校が今も鼓笛活動を行っています。人数の多さや時数調整の困難さから全て6年生だけの編成になっています。ただし、内2校は現在検討中ということです。その理由は、やはり時数確保と他の教育活動の充実だそうです。校歌とドラムマーチだけに絞って対応している学校もありました。

かつて、県内の伝統校で、校長の判断で鼓笛活動を廃止した際、その背景や意図、事情がよく伝わっていなかったために、市教委・県教委まで巻き込んで大事になった事例がありました。最終的に理解いただいたそうですが後味の悪い結果となったようです。私自身、今年度末で定年退職を迎えるにあたり、現状維持で波風を立てずに去る道もありますが、現校長として、目の前にある大きな課題に目を背けて去るのは無責任だと考えます。ある方に相談した際、「校長先生、焼け石に手を突っ込む覚悟があるなら、やってもいいんじゃないですか。」と仰っていただきました。今回のアンケートは、**いずれの結論を出すにしても、鼓笛活動検討に至る背景と、選考上の実態・課題を知っていただくこと、保護者・児童・教員の率直な意見を集約すること**が目的でした。アンケート結果は、すべて5回以上目を通しました。子どもたちにもTV放送で、鼓笛活動のよさと課題を率直に伝えました。1・2年生には挙手で思いを答えてもらいましたが、「やってみよう」という人数が多かったです。先生方にも、保護者の皆様のアンケートに目を通していただき、再度意見を求めました。その結果が、**「保護者も・児童も・教員も・・・賛否両論！」**でした。学校運営を進めていく上で、それぞれの意見を受け止め、まとめあげていくのが役割でもある校長として、これまで、学校や地域、子どもや教員、それぞれのことを思い・考えながら、鼓笛活動について思案してきました。来年度の教育課程編成にあたり、皆様全員の納得がいく結論を出すのは難しいことですが、それぞれの意見を受け止め、できるだけ尊重した上での結論として、来年度の鼓笛活動は下記のようにしたいと考えます。

- 次年度も鼓笛活動を続ける。
- ただし、絶対的な授業時数確保の必要性から、鼓笛活動のもち方を変更する。
 - ① 鼓笛活動は、これまで通り5・6年生で編成する。
 - 伝統の引継ぎを考えると“いきなり6年生で取り組む”のではないようにしたい。
 - ② ただし、5年生は全員が鍵盤ハーモニカ担当とする。
 - 学年別に練習できるようになるので、8クラスの時間割をそろえる必要がなくなり、効率的で、無駄な時間をなくし、練習時間等の削減ができる。また、今年度はコロナウィルス感染症予防の観点から、異学年合同の活動を制限していることにもつながる。
 - ③ 指揮者をはじめ、特別な担当は6年生から選考する。
 - 6年生での特別な担当の枠が広がる(特別な担当がすべてではありません)。
 - ④ 演奏曲目は、「校歌」と「ドラムマーチ」とすることによって、伝統の継承を図る。
 - これで、伝統の継承を図りながら、練習時間の削減がかなり期待できます。
 - ⑤ 6年生の選考は、選考基準に基づいたオーディションを行う。その際、児童・保護者の信頼の上に、後からの申し入れがないような取り組みにしていきたい。
 - ⑥ 不公平感を軽減するために、基本的に鼓笛の衣装は着用しない。ただし、スカーフ等軽微なものについては、先生方や児童の意見を求め、検討していく。

まだまだ十分に伝えきれない思いもありますが、本校の教育活動全般がバランスよく充実したものになるよう、どうか、保護者・児童・教員、皆様のご理解とご協力をお願いします。